

報道関係各位

大岡信ことば館展覧会のご案内

楽しくって幸せになる 雑貨のカーニバル

「これっていいね 雑貨主義展」

谷川晃一・雑貨コレクション&作品展示

2014年2月9日（日）～2014年6月1日（日）

「雑貨主義」とは……………

フェティシズムである。もの好きである。だが、物質主義ではない。
美学である。そして芸術であっても、芸術でなくても良い。
オブジェである。漂流物かもしれない。発見するものである。玉石混淆である。
だが、分節化は拒否する。向日性である。太陽と海と緑と風を好む。
新たな思想の磁場である。先端の思想である。聖民俗学である。

フェミニズムである。ヒッピーカルチャーが起源でもある。カウンターカルチャーである。拡張した女性空間のオブジェである。
軸足は日常にある。ブリコラージュである。遭遇するものである。一点主義である。偏在し、散在している。

“私”である。好き嫌いを判断基準にする。無用か実用を問わない。直裁的である。主観主義である。遊ぶ心である。ささやかなカーニバル空間である。心地よい暮らしの証明である。

“主”にはならない。“それ以外のもの”“その他のもの”である。
規格の外、法則の外にある。逸脱である。有用無用を問わない。アナキズムである。タオである。
無くても良い。だがあった方が良い。

■ 開催趣旨

本展は、画家・谷川晃一が所蔵する雑貨を展示します。アフリカの泥染め、ジャワの更紗やラオスの織物、インドのミラーワークといった民族アートや、籠や器などの生活雑貨、子どもの頃から集めていた切手やマッチラベルから、はたまたスターバックスの紙袋やスウオッチ、ぬいぐるみやタロットカード、花札にコースターなどなど、加えて、谷川自身の手による絵画や陶板、ボックスアート、ポスターや句集にいたるまで、一同に会す“雑多な”展覧会です。

「何が雑貨で何が雑貨でないのか客観的には判然としないものが雑貨」、「雑貨は暮らしの細部であり、無くても困らないが、あれば生きる喜びにも通じる豊かさの源泉だ」という谷川。自身の価値観と独自の視点で物事を見つめ、画家であると同時に批評家としても活躍してきた谷川が掲げる「雑貨主義」は、根底に暮らしを愛する思想があり、その大切さを投げかけるものです。

多様な雑貨の姿に底流する「生きることは暮らすこと」という谷川のメッセージが、わたしたちの豊かな生き方のひとつの提示となりましたら幸いです。

■ 谷川晃一プロフィール

谷川晃一 たにかわ こういち

画家・美術評論家。1938年東京に生まれる。中学2年で画家を志す。以来さまざまな副業につきながらも独学による制作を続ける。デビューは読売アンデパンダン展。1968年より批評活動を開始して、美術にプロ・アマの違いはない、美術は常に生活とともにあるべきなど、その在り方や根拠をめぐって強力な論陣をはって来た。1988年に伊豆高原へ転居。2008年、画家・エッセイストの妻、宮迫千鶴を喪う。伊豆高原では作品にも海や樹木や鳥などの要素を加えて、「陽光礼讃」への傾向を顕著にしてきた。さらに自身の芸術思想の実践として「伊豆高原アートフェスティバル」を立ち上げ、以来20年を超えて各回動員数5万人を誇る文化イベントを成功させてきた。2013年春、雑貨論を書き始める。最大のヒントになったことは「伊豆高原アートフェスティバル」を長年観察してきて、その原動力になっているのは女性たちの雑貨への情熱であることに気づいたことであった。2011年、回顧的個展開催（三鷹市美術ギャラリー）。著書に『アール・ポップの時代』（1979年・皓星社）、『今日の美術とサブカルチャー』（1984年・国文社）、『毒曜日のギャラリー』（1985年・リプロポート）、『絵はだれでも描ける』（2003年・NHK出版）、『草色のギャラリー』（2010年・みすず書房）などがある。近年の『句集 地名傷』（2012年・南庭工房）や絵本『サカサあそび オカのカオ』（2012年・童心社）などでは、ますますとらわれのない逸脱的で超越的な精神の境地を示している。

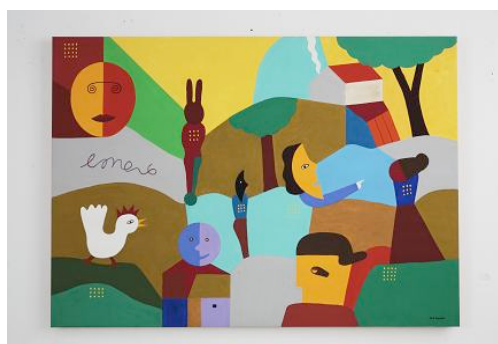
■ 開催概要

【展覧会名称】 これっていいね 雑貨主義展

【会期】 2014年2月9日（日）～2014年6月1日（日）
※2月8日（土）は内覧会を開催

【開催場所】 大岡信ことば館
〒411-0033 静岡県三島市文教町 1-9-11
TEL:055-976-9160 / FAX:055-989-1360
<http://www.zkai.co.jp/kotobakan/>
E-mail:kotobakan@zkai.co.jp

- 【開館時間】 午前 10 時～午後 5 時（入館は閉館時間の 30 分前まで）
※毎月第 3 金曜日は午後 7 時まで開館延長
- 【休館日】 月曜日（ただし祝日の場合は開館し、翌日休館）
- 【入館料】 大人 1,000 円
大学生 600 円
小中高校生 200 円
団体（10 名以上） 各 100 円引き
未就学児 無料
障害者手帳ご提示の方およびその付き添いの方 1 名 無料
- 【主催】 株式会社増進会出版社 大岡信ことば館
- 【協賛】 株式会社 Z 会、第一三共株式会社、スルガ銀行、
伊豆箱根鉄道株式会社、みしまプラザホテル
- 【後援】 静岡県教育委員会、三島市教育委員会、沼津市教育委員会、
長泉町教育委員会
- 【展示内容】 谷川晃一の雑貨コレクションと、絵画や陶板など谷川自身の作品とをあわせて、300 点余り展示する。



左上) シルヴィア・エメリーによる手描き染め（アメリカ）
左下) ガラス瓶（日本）

右上) カチーナ人形（アメリカ）
右下) 「春の陽光」アクリル画 2013 年 谷川晃一

■ 会期中イベント

ワークショップ「ビックリ！！箱をつくろう」

身近な素材を使って、わくわくどきどきする箱をつくってみよう！

日時：2014年2月23日（日）午前10時30分～

参加費：1,000円（展覧会観覧料込）

対談 谷川晃一×山根基世（アナウンサー、「ことばの杜」代表）

気心の知れた二人が語る、雑貨とともにある生活とは。

日時：2014年3月2日（日）午後2時～

参加費：2,000円（展覧会観覧料込）

鼎談 谷川晃一×安藤礼二（文芸評論家）×寺村麻耶子（絵本研究家）

雑貨とは何か。誰もとりあげたことのない雑貨論が展開。

日時：2014年4月20日（日）午後2時～

参加費：2,000円（展覧会観覧料込）

フォルクローレ・コンサート

雑貨がならぶ展示室で、日本のフォルクローレ界の第一人者によるイブニングコンサート。

日時：2014年5月17日（土）午後6時～

演奏：木下尊惇（フォルクローレギタリスト）

参加費：2,000円（展覧会観覧料込）

イベントの詳細やチケットのご購入方法は、当館ウェブサイトをご覧ください、
下記までお問い合わせください

■ そのほか

展覧会と同時に、谷川晃一著『これっていいね雑貨主義』（平凡社コロナ・ブックス）が発売
されます。

* 広報用図版について

上記に掲載した図版は、広報用にお使いいただけます。
掲載ご希望の方は下記までご連絡をお願いいたします。

【問い合わせ】

大岡信ことば館

住所 静岡県三島市文教町1-9-11 Z会文教町ビル1,2階

TEL:055-976-9163/FAX:055-989-1360

E-mail: kotobakan@zkai.co.jp

<http://www.zkai.co.jp/kotobakan/>

広報担当：神田茂紀／展覧会担当：中村童子